

やまなみ

2013
夏
Vol.9

祝！富士山
世界遺産登録



写真提供：南牧村 産業建設課 長野県から富士山を望む

特集 記事

「知的障害者の地域生活移行に関する
地域生活実態調査・検証事業」報告

連載 記事

事業所リレートーク

チャレンジアクション
松本ひよこ『重度障害者等包括支援』

つれづれ福祉
『小春日和の挑戦』

平成25年度組織概要
平成25年度事業計画
平成24年度事業報告
平成24年度収支決算

人事異動／トピックス／プレゼント



いとうけんじ

長野県社会福祉事業団 常務理事 伊藤 敏

本年4月、常務理事に就任しました伊藤です。前任の宮之本常務理事同様よろしくお願いたします。

さて、この4月1日、国において、障害者自立支援法が改正となり、名称改め「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（障害者総合支援法）」が施行されスタートしました。

当事業団は、同法や「長野県障害者プラン2012」に沿いながら、これまでの事業の成果や課題等を踏まえ、新たな時代に対応するべく昨年11月に「第2次長期構想『信州の自然を愛し、ゆったりとした暮らし』ともに紡ぎます』（平成24、28年度）を策定しました。この

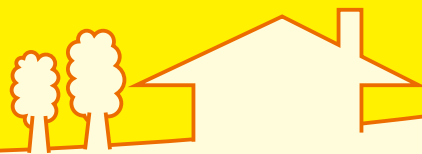
構想のもと、利用者がそれぞれの地域で豊かに暮らすことを目指した「信州自然的暮らしの創

造」をスローガンに全職員が一丸となり取り組んでいるところ

です。
また、最近では、7月に、「学ぶ・交わる・楽しむ」地域での『より豊かな暮らし創り』を信州から』をコンセプトに、当事者参加型セミナーとして「第2回駒ヶ根高原ふくしセミナー」を開催したところ、昨年を上回る多くの参加があり、地域における暮らし創りのヒントや方策を考えるきっかけを提供できたのではないかと感じています。

これからも、地域に開かれた事業団として多くの情報を発信しながら、関係機関、地域住民等との協働やネットワークの形成を図り、長期構想の計画を着実に実行したいと考えていますので、関係者の皆様の一層のご指導、ご協力をお願い申し上げます。

「知的障害者の地域生活移行に関する地域生活実態調査・検証事業」報告



【図1】調査対象概念図

当事業団は以前にも日本財団から助成をいただき、平成18年4月から平成20年7月まで「長野県西駒郷の地域生活移行調査・検証事業（H18・4～H20・7）」を実施し、「施設での生活に比べホーム利用者がグループホーム（以下「GH」と表記）の生活に満足していること」、そして「地域生活移行はゴールではなくスタートであること」を明確にしました。それから約3年が経過し、当事業団では「ホーム利用者が地域に根ざした生活をしているか」を確認するため、長野大学と共同で再度調査・検証事業を実施することとしました。

なお、今回はホーム利用者への聴き取り調査のほか地域住民、世話人、民生委員へのアンケート調査【図1】を実施し多面的に検証するとともに、前回課題となった「意思伝達が困難な利用者への聴き取り調査方法」についても新たに検討・実施しました。

聴き取り・アンケート調査 回答結果

① ホーム利用者

178 / 195
人 回答

- 87%の利用者が「GHに引越して良かった」と回答
- 「暮らし」の中身が乏しい傾向がある（休日はテレビ・ラジオ等で過ごす）。

② 地域住民

210 / 322
戸 回答

- 31%の地域住民が「ホーム利用者の名前を知っている」と回答
- ホーム利用者に対する認知度に「設置地区」や「経過年数」が大きく影響する（店舗等、社会資源の多い地区に設置したGHは交流が生まれやすい）。

③ 世話人

96 / 124
人 回答

- 業務にやりがいを持っているものの、障害の多様化、重度化等により支援面の不安を抱えている世話人が多い。

④ 民生委員

22 / 33
人 回答

- 年々地域コミュニティが希薄化する状況に加え、個人情報保護等の観点から活動の幅が狭められている。

意思伝達が困難な利用者への聴き取り調査について

前回の調査・検証事業で懸案となった「意思伝達が困難な利用者」に対する調査方法を検討し、実施することを今回の調査の大きな目的の一つに掲げ、長野大学で言語・コミュニケーション障害を専門とする高木潤講師を中心に検討を行い、「意思伝達が困難な利用者」を「音声言語以外の方法でならばコミュニケーションが可能利用者」と定義したうえで、ドロップレットプロジェクトが開発・デザインしたイラスト【図2】や写真を提示し、該当するものを指して回答する方法を採用しました。

その結果、視覚的な手段を用いたことによって、多くのホーム利用者から回答を得ることができた一方、知的能力の問題から質問の内容を理解し判断することが困難なケースも見られ、日頃から利用者に応じたコミュニケーション方法を工夫していく必要性を認識することとなりました。



【図2】聴き取り調査用イラスト



「意思伝達力」及び「氏名認知度」からの視点による調査結果の分析・検証

今回の調査ではホーム利用者の「意思伝達力」と地域住民の「氏名認知度」に基づいてGHをカテゴリーライズし、これら副次的要因から地域生活における支援のヒントを見出そうと考え、当事業団が運営するGHを3区分に分け、それぞれの特徴を検証しました【図3】。

興味深いことは、区分Bと区分Cは、設置経過年数やホーム利用者の障害程度区分は概ね等しいものの、地域住民の氏名認知度が大きく異なりました。この理由を多面的に検証したところ、日中活動の場までの距離の違いが起因すると考えられます。日中活動の

↑名前を知っている	なし	区分C 12ホーム ● 設置後平均4.9年 ● 中軽度者が多い ● 日中活動の場まで平均3.1km
	区分A 9ホーム ● 設置後平均2.1年 ● 重度者が多い ● 日中活動の場まで平均4.6km	区分B 15ホーム ● 設置後平均4.9年 ● 中軽度者が多い ● 日中活動の場まで平均7.0km
↓名前を知らない	←名前を言えない	→名前を言える

意思伝達力（ホーム利用者）

【図3】 カテゴリー結果と特徴

当事業団では今回紹介しました「知的障害者の地域生活移行に関する地域生活実態調査・検証事業」報告書（冊子）を無料で配布しております。ご希望の方は長野県社会福祉事業団までお問い合わせ下さい。（電話：026-228-0337）



場までの距離が遠い区分Bは送迎サービスを利用したり、公共交通機関を利用するケースが多い一方、区分Cは徒歩で日中活動の場まで移動するケースがほとんどであり、結果として地域住民と交流する機会を多く持っていることが明らかとなりました。また区分Cのホーム利用者の100%が「グループホームに引越して良かった」と回答しており、「地域住民から理解され、地域の一員として生活している喜び」がこの結果に繋がっていると考えられます。



それぞれの「地域」「風土」にあったそれぞれのライフスタイルの提言

今回の調査・検証事業によって、ホーム利用者が地域に根ざした生活を送るには、GHの設置地区や日中活動の場までの移動距離・移動手段が重要な要因となることを明らかにすると共に、ホーム利用者の「暮らし」の中身が乏しいという大きな課題が表面化しました。

誤解を恐れずに言えば、事業団は「GHはたくさん作った」ものの、「GHの暮らし」について職員間及び利用者として十分認識を深めたいと生活支援してきたと申し上げたいのかもしれませんが、そこで事業団では右表の提言（対策）のとおり、ホーム利用者の積極的な「暮らし」創りを応援していくこととしました。

提言（対策）
● コミュニケーションカード等を用い、本人が「選べる」環境を整える
● GHを賃貸物件的に選べるスタイルにする（都市型GH、郊外型GH、徒歩通勤型GH、女性用GH、ペット入居可GH…等）
● 「信州自然的暮らし」の創造 <ul style="list-style-type: none"> → 四季の自然を楽しむ（自然散策等） → 暮らしに農業を取り入れる（家庭菜園等） → 地域の文化・伝統を取り入れる（地域行事等への参加、郷土食の摂取等）

第2回駒ヶ根高原ふくしセミナー開催!

平成25年7月12日(金)～13日(土)

昨年度に引き続き、ホーム利用者等の「より豊かな暮らし創り」を応援するため、当事業団を含む6団体主催による当事者参加型セミナーを開催しました。「学ぶ」「交わる」「楽しむ」をコンセプトに様々なイベントを用意し、2日間延べ650人の皆様にご参加いただきました。

学



基調講演

「生き物たちから学ぶ『信州自然的暮らし』」

自然界の報道写真家、宮崎学さんをお招きし、動物や自然からのメッセージを踏まえながら、「信州の自然を取り入れながらエコで分かりやすい暮らし＝『信州自然的暮らし』」についてお話いただきました。



イベント一覧

会場：宮田村民会館、駒ヶ根高原、宮田観光ホテル、西駒郷

7月12日(金)

- シンポジウム「福祉事業所が地域を耕す」
- カラオケのど自慢大会
- どこでも運動・レクリエーション教室
- 当事者意見交換会
- 創作スイーツコンテスト
- 駒ヶ根高原フォトコンテスト
- 駒ヶ根高原スケッチ教室
- 駒ヶ根高原釣りコンテスト
- 大夕食パーティー

7月13日(土)

- 基調講演「生き物たちから学ぶ『信州自然的暮らし』」
- アートてんこもりワークショップ
- 信州駒天駅伝大会
- 中央アルプス駒ヶ岳ロープウェイ



楽



カラオケのど自慢大会

宮田村民会館の大ホールで自慢の歌声を披露しました。演歌歌手の遠山洋子さん、ひだ晶子さんをゲストにお招きし、大いに盛り上がりました。



駒ヶ根高原釣りコンテスト

優勝者は1時間弱で19匹のマスをつまみあげました(釣った魚は塩焼きにして、大夕食パーティーでおいしくいただきました)。

この2日間を通じ、当事者も支援者も、地域生活をより豊かにする「きっかけ・ヒント・種」をお持ち帰りできたのではないのでしょうか。本セミナーはイベント内容をブラッシュアップしながら、来年度以降も継続して開催していきます。是非、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

交



大夕食パーティー

参加者159人! 熱気に包まれた会場では恒例のくじ引き大会を行い、駒ヶ根市・宮田村の観光協会、商工会議所にご提供いただいた地元特産品(地ビール、ワイン、ソースかつ丼ソース等)を多くの皆さんが手にし、大満足の夜となりました。



第3回 信州駒天駅伝大会

西駒郷周辺のコースで4人～8人がタスキを繋ぎました。なお、団体の部では「伊那養護学校」が2連覇を果たしました。





① みのちグループホームセンター

～事業所名を変更して心機一転 利用者数60人(13ホーム)～



当センターは、平成18年10月に「共同生活援助・共同生活介護事業所」として指定を受け、これまで水内荘の事務所内で業務を行ってきました。昨年度、水内荘グラウンド内に第2作業棟が新設されたことに伴い、NPO法人「豊野結いの会」と共に当センターの事務所も第2作業棟へ移転しました。

また、法改正に合わせ平成25年4月1日付で「水内荘グループホーム・ケ

アホームセンター」から「みのちグループホームセンター」に事業所名も変更し、心機一転、新たなスタートを切りました。

今年度は、長期構想に掲げた「信州自然的暮らしの創造」の実践として、新たに「マレットゴルフサークル」を立ち上げ、近隣のマレットゴルフ場にて心地よい汗を流しています。また、世話人会議では「暮らし」をテーマに話し合い、試行的にホーム単位でイベントの企画・実施を始めました。(西郷)



ピックアップ! 西駒郷

平成23年度に新事業体系に移行した「西駒郷」の取り組みを、シリーズで紹介しています。

② 西駒郷地域移行推進課 自活訓練

～地域生活移行のお手伝い～

西駒郷内には施設入所利用者の中で地域生活移行を希望する方の地域生活を応援するために、2か所の自活訓練ホーム【アカシアホーム】(定員5名)【すみれホーム】(定員4名)があります。

今、ホームでは「地域生活が始まった後、継続していける楽しみを見つけよう!」ということで、ダンスや映画鑑賞・野菜作り・ネイル体験・ミニコンサートなどの活動を週末中心に提供し、皆さんに趣味や楽しみの幅を広げていただけるようお手伝いをしています。

地域生活の中で自分の楽しみを充実・発展していただけるといいですね。(藤原)



③ 西駒郷宮田支援事業部 わーく宮田

～林産の作業内容と自主製品のご紹介 利用者数18人～



わーく宮田「林産班」は、薪割機の操作・薪運搬や薪積み作業といった仕事を中心です。薪の需要が増える秋冬のシーズンに備え、忙しい時は3台の薪割機をフル稼働してがんばっています。

受託(DLD=薪ストーブの販売代理店)からの売上は、震災の影響もあり平成24年度は前年比31%増えました。自主もエコ志向による薪ストーブの導入が増え、同じく9%増となっています。

また、材木の自然な形を出来るだけ残して加工した物を利用者が磨きと塗装を行った手作りプランターを製作しています。ベルシャイン駒ヶ根店の常設店や近隣花屋等で販売を始めてから好調に売り上げが伸びています。

夏は暑く、冬は寒い過酷な作業環境ですが、信州の自然を感じながら体を動かし、皆さん充実した毎日を送っています。(合田)



松本ひよこ「重度障害者等包括支援」 「より良い支援を模索しながら、一歩ずつ」

重度障害者等包括支援とは

最重度の障害等を持つ方のためのサービスとして、利用者の必要に応じて2つ以上の障害福祉サービスをコーディネートし、サービス提供全体について責任を負うものです。週単位のサービス計画を立て、定期的、または必要に応じたサービス担当者会議を開催する事で、適切かつ効果的なサービスを提供できるよう努めています。サービス利用対象者は、Ⅰ類型、Ⅱ類型、Ⅲ類型と3種類に区分され、松本ひよこではⅢ類型に該当される方を支援しています。

利用者の状況

松本ひよこでは、重度障害者等包括支援のために新築したケアホーム「波田しなのハイツ（平成23年4月開所）」において20代～40代の5名の利用者者にサービスを提供しています。利用者には重度の障害があるため、日常生活全般において常時支援が必要となり（例：健康管理、着替え支援、食事支援、トイレ支援、入浴支援、整容支援、外出支援、見守り支援：等）、命に関わる危険な行動をとってしまう事もあるため、大きな事故につながるような常に見守る事も必要です。

現在、日中活動は生活介護サービスを利用して、ドライブで公園等への外出の他、ウォーキング、買物、紙薪作り、音楽鑑賞、創作活動、畑仕事、教材を利用した手作業、季節の行事などを取り入れて活動しています。小さな頃から手作業



- Ⅰ類型**…人工呼吸器による呼吸管理を行っている身体障害者である方。（筋ジストロフィー・脊椎損傷・ALS・遷延性意識障害等）
- Ⅱ類型**…寝たきり状態にある最重度知的障害がある方。（重症心身障害者等）
- Ⅲ類型**…認定調査項目の行動援護関連項目の合計点数が8点以上の方。（強度行動障害等）



現在、日中活動は生活介護サービスを利用して、ドライブで公園等への外出の他、ウォーキング、買物、紙薪作り、音楽鑑賞、創作活動、畑仕事、教材を利用した手作業、季節の行事などを取り入れて活動しています。小さな頃から手作業

今後の展望

松本ひよこ支援員
百瀬 隆裕



重い障害があっても会話が困難な利用者でも、色々な事にチャレンジしていく事で新たな力を発見できたり、今までできなかった事ができるようになる事もあり、それが支援の中での励みにもなっています。支援者として、今後も内外の研修参加等で資質の向上を図り、日頃の支援を見直す機会を持ちながら、利用者がより自分らしく生活していただけるよう寄り添って支援していきます。また、現在の定員は5名ですが新たな利用ニーズも出てきており、定員の増員も含め、より多くの皆様のニーズに応えられる体制を整えていく必要もあると考えています。

す。よりよい支援を模索しながら、一歩ずつ前進していきたいと思っています。される場面も多く見られていき、りで培われてきた力が生かす。よりよい支援を模索しながら、一歩ずつ前進していき

事業所の分轄・名称変更のお知らせ

「ほっとワークスグループホーム・ケアホームセンター」は事業の効率化と、より質の高いサービスの提供を目指し、平成25年4月1日付にて左記のとおり事業所の分轄及び名称変更を行いました。今後ともよろしくお願ひします。（北沢）

- ・ほっとグループホーム伊北（17ホーム）
- ・ほっとグループホーム伊南（8ホーム）
- ・ほっと居宅（居宅介護等事業）

※詳細は8Pに掲載

「ほっとグループホーム伊南」 「ケアホームねむの花」を開所しました！

平成25年4月6日、重度の知的・身体障害を持つ方を対象とした「ケアホームねむの花」を駒ヶ根市に開所しました。車椅子でもゆったりと過ごせる広々としたリビングや、好きな時間に車椅子でゆつくり入浴できる特殊浴槽を設け、現在5名の利用者が穏やかな時間を過ごしています。（斎藤）



地域と共に就労移行を目指す

小春日和の挑戦



障害者就労移行支援事業所 小春日和の取り組み

当事業所は、企業等への就職を希望する障害者を対象に、一定期間（基本2年間）、事業所内や近隣企業における作業体験・実習を計画的プログラムで行うことにより、就労に必要な生活習慣や知識・技能の取得向上と、利用者に合った職場探しから職場定着に関する相談等を行う目的で平成24年4月に長野市豊野町にオープンしました。

かまどcafé 小春日和の位置づけ

小春日和の大きな特徴は当事業団初となる飲食店舗「かまどcafé 小春日和」において、調理・販売・接客などの実践的なトレーニングを行えることです。

「かまどcafé 小春日和」では、コミュニケーションスキル向上を目指すための接客業務と、洗剤の盛り付け・簡単な調理などを訓練できる厨房業務に分かれ、様々な職種の特



つれづれ福祉

徒然なるままに…他の法人等とのネットワークの中から見える「福祉」を、そこはかとなく書き綴ります。

かまどcafé 小春日和のイベント

「JAZZ BIYORI」

音楽を聴きながら食事やスイーツを楽しむ企画です。季節感のあるイベントにしたいという思いから、年4回（8月の夏イベント、10月ハロウィンイベント、12月クリスマスイベント、2月バレンタインイベント）実施しました。

「キッズBIYORI」

地元の清泉女学院短期大学児童文化研究クラブに協力をお願いし、子供たちを対象に、おやつと共に人形劇やゲームを楽しんでいただく企画を実施しました。

「春だより」の壁飾りイベント

地元住民からの発案により実施した企画です。春限定メニューを用意し、お客様に春を感じていただきました。また、期間中来店されたお客様に、地域ボランティアさんと一緒に作成した折り紙の壁飾りをプレゼントしました。

験・実習、能力の向上に向けた訓練の場となつていきます。

また、小春日和は住宅地の一角に位置していることから、ランチやスイーツの提供やイベントを通し、地域の皆様にとって心休まるゆつたりとした空間を提供できるように努めています。

就職を希望する障害者にとって、雇用状況はまだまだ厳しいものがありますが、下記のような様々なイベントを開催しながら、地域の皆様と共に就労移行を目指していきたいと考えています。

（仲田）

地域の方からのコメント

春だよりイベント発案者 豊野町住民自治協議会 **渡邊美恵子** 様

「まちの縁側」として気軽に利用してもらいたいという思いで、お店のスタッフとともに企画しました。つるしびな・タペストリー・おひな様を地元住民のご厚意によりお借りし、店内を賑やかにしたり、利用者の方と一緒にプレゼント用の折り紙を作成、ジャズコンサートも開催し、大好評でした。これからも応援していきたいです。



JAZZ BIYORI 演奏者 アルモジャズ **清水小百合** 様

小春日和さんは、明るく清潔ととにかくお洒落！お給仕をして下さる方が障害をもっていて、でも一生懸命上手に対応して下さいるのも驚きでした。

誰もが癒される場を求めています。それがここにある事に沢山の人が気がついていただけたら…、私たちの演奏が「小春日和」さんのお役に立てていければ嬉しいと思っています。



【長野ブロック】

- ① **みのちそう 水内荘**
 - ・施設入所支援事業（定員40人）、生活介護事業（定員68人）
 - ・短期入所事業（併設型6人）、相談支援事業（一般・特定）
- ② **みのちグループホームセンター**
 - ・共同生活援助・共同生活介護事業（13ホーム 定員64人）
- ③ **長野圏域障害者総合支援センター 歩楽里**
 - ・地域生活支援事業、相談支援事業（受託・一般・特定・障害児）
 - ・居宅介護事業（身体介護・家事援助） ほか
- ④ **やくもびより 八雲日和**
 - ・就労継続支援B型事業（定員25人）、生活介護事業（定員14人）
 - ・自立訓練（生活訓練）事業（定員6人）
- ⑤ **こぼろびより 小春日和**
 - ・就労移行支援事業（定員20人）
- ⑥ **長野市地域活動支援センター こぶし**
 - ・地域活動支援センター事業（定員15人）

ブロック長 宮之本一宏（水内荘所長）
副ブロック長 小島 健一（水内荘支援課長）

⑬ 法人本部(事務局)

- ・事業団が経営する各事業所の管理運営における調整
- ・介護福祉士等修学資金貸与事業 ほか

【障害者福祉センターブロック】

- ⑬ **長野県障害者福祉センター 「サンアップル」**
 - ・障害者のスポーツ・文化活動支援事業
- ⑭ **障害者スポーツ支援センター 駒ヶ根「サンスポーツ駒ヶ根」**
 - ・サンアップルの南信サテライト事業所
- ⑮ **障害者スポーツ支援センター 松本「サンスポーツまつもと」**
 - ・サンアップルの中信サテライト事業所
- ⑯ **障害者スポーツ支援センター 佐久「サンスポーツ佐久」**
 - ・サンアップルの東信サテライト事業所

ブロック長 関口 一道（障害者福祉センター所長）

【松本ブロック】

- ⑦ **信濃学園**
 - ・知的障害児施設入所事業（定員30人）
 - ・短期入所事業（空床型）、日中一時支援事業
 - ・施設入所支援事業、生活介護事業 ※18歳以上対象
- ⑧ **松本あさひ学園**
 - ・情緒障害児短期治療施設（入所30人、通所5人）
- ⑨ **松本ひよこ**
 - ・生活介護事業（定員21人）、就労移行支援事業（定員6人）
 - ・就労継続支援B型事業（定員10人）
 - ・共同生活援助・共同生活介護事業（4ホーム 定員23人）
 - ・重度障害者等包括支援事業（定員5人 ※上記再掲）
 - ・相談支援事業（一般・特定・障害児）

ブロック長 合木 康典（信濃学園所長）
副ブロック長 佐藤 靖（信濃学園総務課長）
副ブロック長 小宮山紀道（松本あさひ学園治療支援課長）

【上伊那北部ブロック】

- ⑩ **ほっとグループホーム伊北**
 - ・共同生活援助・共同生活介護事業（17ホーム 定員84人）、相談支援事業（特定）
- ⑪ **ほっとグループホーム伊南**
 - ・共同生活援助・共同生活介護事業（8ホーム 定員41人）
- ⑫ **ほっと居宅**
 - ・居宅介護事業（身体介助・家事援助・行動援護）、地域生活支援事業
- ⑬ **伊那ゆいま～る**
 - ・生活介護事業（定員15人）、就労継続支援B型事業（定員20人）、相談支援事業（特定）
- ⑭ **ほっとワークス・みのわ**
 - ・就労継続支援B型事業（定員20人）、相談支援事業（特定）
- ⑮ **辰野町障害者就労支援センター 「工房めくもり」**
 - ・就労継続支援B型事業（定員20人）、相談支援事業（特定）
- ⑯ **辰野町地域活動支援センター**
 - ・地域活動支援センター事業（定員20人）

ブロック長 埋橋 行雄（辰野町障害者就労支援センター所長）

【上伊那南部ブロック】

- ⑰ **にしこまごう 西駒郷**
 - ・施設入所支援事業（定員160人）、短期入所事業（空床型）
 - ・生活介護事業（定員160人）、自立訓練（生活訓練）事業（定員10人）
 - ・就労継続支援A型事業（定員20人）、就労移行支援事業（定員15人）
 - ・就労継続支援B型事業（定員45人）、相談支援事業（一般・特定）
 - ・自活訓練事業
- ⑱ **上伊那圏域障害者総合支援センター 「きりりあ」**
 - ・相談支援事業（受託・一般・特定・障害児）、障害児等療育支援事業
 - ・発達障害サポートマネージャー整備事業、障害者就業・生活支援センター事業 ほか

ブロック長 原 雅章（西駒郷所長） 副ブロック長 滝 茂樹（西駒郷管理部長）



【管理部門】

1 ほっとワークスGH・CHセンターの3事業所分轄等、組織の改編

ほっとワークスGH・CHセンターを「ほっとGH伊北」「ほっとGH伊南」「ほっと居宅」に3分轄し、責任の明確化、効率化を図り、より細やかで質の高いサービス提供に努めます。

また、西駒郷では、管理部の企画推進課を廃止し、その業務を総務課及び地域移行推進課に移管することで、効率かつ実効性のある組織に改編します。

2 新たな社会福祉法人会計への移行

国の通知による新たな社会福祉法人会計に今年度移行します。

3 介護福祉士等修学資金貸付制度の今後4年間継続実施

平成24年度で終了予定であった県委託の介護福祉士等を目指す学生への修学資金の貸付事業を、平成25年度から新たに4年間実施し、今年度は約40人に対して新規に貸付けを開始します。

【支援部門】

1 相談支援体制の強化・充実

改正障害者自立支援法で強化された「相談支援体制」に対応するため、今年度、新たに5事業所において特定相談支援事業等をスタートさせ、合計10事業所において相談支援事業を行い、障害者が安心して暮らせるために必要な相談支援の充実を目指します。

2 新規採用職員19人の各事業所配属・定着

平成25年4月1日付にて新規採用した19人を、長野ブロックに2人、松本6人、上伊那北部1人、上伊那南部9人、障害者福祉センターに1人それぞれ配属し、各事業所で定着に努めます。

3 「第2回 駒ヶ根高原ふくしセミナー」の開催

当事業団ほか5団体と組織した実行委員会主催による当事者参加型セミナー「駒ヶ根高原ふくしセミナー」を7月12日、13日に宮田村、駒ヶ根市を会場に開催し、グループホーム等で生活する障害者の豊かな暮らし創りの支援や福祉情報発信に取り組みます。

4 「信州自然的暮らし」の創造計画推進

長期構想のテーマに掲げた「信州自然的暮らし」を各事業所プログラムに導入します。

項目	具体的プログラム
自然を活かした暮らし	自然散策、山菜採り、動物飼育
農業的暮らし	花壇づくり、家庭菜園での野菜作り
生活習慣・伝統を取り入れた暮らし	地域行事参加、郷土食の摂取
エコな暮らし	自然エネルギーの活用

平成25年度 収支予算総括表(法人合算)

(単位：千円)

区 分		本年度予算額	前年度予算額	増 減	区 分		本年度予算額	前年度予算額	増 減
収 入	就労支援事業収入	89,870	85,249	4,621	支 出	就労支援事業支出	89,870	85,249	4,621
	障害福祉サービス等事業収入	1,709,371	1,703,222	6,149		事業活動支出	2,031,747	1,978,924	52,823
	受託事業等収入(※注1)	1,064,433	1,056,026	8,407		人件費支出	508,718	522,952	△ 14,234
	経常経費寄附金収入	50	50	0		事業費支出	324,091	388,066	△ 63,975
	その他収入(※注2)	31,439	32,225	△ 786		事務費支出	2,733	2,585	148
	小 計	2,895,163	2,876,772	18,391		その他の支出(※注4)	2,957,159	2,977,776	△ 20,617
	施設整備等収入	0	91,140	△ 91,140		小 計	46,728	169,667	△ 122,939
	その他の活動収入(※注3)	134,297	227,450	△ 93,153		その他の活動支出(※注5)	32,478	26,855	5,623
	法人内資金移動			0		法人内資金移動			0
	合 計	3,029,460	3,195,362	△ 165,902		合 計	3,036,365	3,174,298	△ 137,933
				当期資金収支差額	△ 6,905	21,064	△ 27,969		
				前期末支払資金残高	487,504	428,796	58,708		
				当期末支払資金残高	480,599	449,860	30,739		

《新会計基準への移行に伴う予算総括表の変更内容》

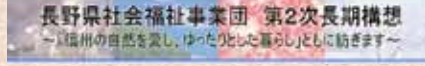
・前年度予算額は新会計基準の科目に置き換えて便宜的に増減を比較してある。
・法人内資金移動は予算規模を明らかにするため全て相殺処理してある。

《科目(区分)に関する補足》

注1 「受託事業等収入」は、「障害福祉サービス等事業収入」のうち、指定管理料等の「受託事業収入」のみを抽出した。
注2 「その他収入」は、「受取利息配当金収入」「その他の収入(雑収入等)」の合計額とした。
注3 「その他の活動収入」は、「積立資産取崩収入」と同一。
注4 「その他の支出」は、「支払利息支出」「その他の支出(雑支出等)」の合計額とした。
注5 「その他の活動支出」は、「積立資産支出」と同一。

1 長野県社会福祉事業団第2次長期構想の策定

長期構想課題別WGを兼ねた事業団委員会が中心となり、これまで実施してきた事業の成果や課題を踏まえて、平成24年11月に『長野県社会福祉事業団 第2次長期構想～「信州の自然を愛し、ゆったりとした暮らし」ともに紡ぎます～』を策定しました。



2 第1回駒ヶ根高原ふくしセミナーの開催

平成24年10月20日、21日に宮田村民会館、西駒郷、駒ヶ根高原において、「学ぶ」「交わる」「楽しむ」をコンセプトに、シンポジウムや大夕食パーティー、駅伝大会など様々なイベントを行い、当事者や支援者など400人余にご参加いただきました。



第1回 駒ヶ根高原ふくしセミナーオープニング
(南原苑太鼓)

3 知的障害者の地域生活移行に関する地域生活実態調査・検証事業の実施

日本財団から助成を受け、昨年度から長野大学と共同研究を行ってきた標記事業について、駒ヶ根高原ふくしセミナーで結果報告をするとともに、報告書を関係機関に配布しました。※詳細は「特集記事」に掲載



第2回 信州駒天駅伝大会

4 小春日和の開設

事業団初となる飲食店舗を構えた就労移行支援事業所として長野市豊野町に平成24年4月に開所しました。※詳細は「つれづれ福祉」に掲載



障害者就労支援事業所
小春日和外観

5 水内荘50周年感謝祭の開催、第2作業棟の新築

平成24年9月8日に元利用者・職員等、約100人が集まり水内荘50周年を祝いました。また、利用者の増員や日中活動の内容充実を図るため、新たな活動スペースとして第2作業棟を新築しました。



小春日和イベント
(JAZZ BIYORI)

6 移動販売車の導入

事業団初となる移動販売車を2台導入しました。

①ぬくもり号 (辰野町障害者就労支援センター)	うどん、ラーメンの調理もできる移動販売車です。(日本財団助成事業)
②ビーンズ2号 (西駒郷)	どらやきや豆腐の移動販売のほか、買い物弱者への支援として導入しました。



水内荘50周年記念航空写真

7 入所施設利用者の地域生活移行の推進

平成24年度は6人が地域生活移行しました。なお、西駒郷と検討を進めてきた自閉症や行動障害、重度の心身障害を持つ利用者のために「ケアホームねむの花」を駒ヶ根市に新築しました。※詳細は「チャレンジ・アクション」に掲載

8 事業団広報ビデオの制作

福祉への志が高い人材の確保や利用希望者等へのPRのため、入所者やグループホーム利用者の暮らしや日中活動の様子など、利用者の生き生きと活動している姿や事業団事業を紹介する広報ビデオを作成し、関係機関、福祉系大学などへ配布しました。



移動販売車「ぬくもり号」

平成24年度 収支決算書 (法人合算)

資金収支計算書

(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

勘定科目	予算	決算	差異
就労支援事業収入	87,936,000	85,034,864	2,901,136
就労支援事業収入計(1)	87,936,000	85,034,864	2,901,136
就労支援事業支出	87,081,000	83,747,935	3,333,065
就労支援事業支出計(2)	87,081,000	83,747,935	3,333,065
就労支援事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	855,000	1,286,929	△ 431,929
目立支援費等収入	1,491,190,000	1,453,214,083	37,975,917
利用料収入	38,000	38,265	△ 265
私的契約利用料収入	205,572,000	199,675,569	5,896,431
委託事業等収入	1,060,928,000	1,057,059,007	3,868,993
補助事業等収入	45,448,000	50,548,370	△ 5,100,370
経常経費補助金収入	298,098,000	298,096,000	2,000
寄附金収入	8,579,000	8,906,000	△ 327,000
雑収入	30,378,000	33,714,269	△ 3,336,269
借入金利息補助金収入	1,000	0	1,000
受取利息配当金収入	3,921,000	4,024,087	△ 103,087
会計単位間繰入金収入	40,272,000	31,575,630	8,696,370
経理区分間繰入金収入	271,948,000	279,763,747	△ 7,815,747
福祉事業収入計(4)	3,456,373,000	3,416,615,007	39,757,993
人件費支出	1,970,715,000	1,915,687,620	55,027,380
事務費支出	444,661,000	420,003,241	24,647,759
事業費支出	512,098,000	488,264,748	23,833,252
借入金利息支出	2,465,000	2,289,106	175,894
経理区分間繰入金支出	275,792,000	263,330,597	12,461,403
会計単位間繰入金支出	34,946,000	31,496,734	3,449,266
福祉事業支出計(5)	3,240,667,000	3,121,072,046	119,594,954
福祉事業活動資金収支差額(6)=(4)-(5)	215,706,000	295,542,961	△ 79,836,961
施設整備等補助金収入	75,321,000	75,321,000	0
施設整備等収入計(7)	75,321,000	75,321,000	0
固定資産取得支出	230,457,000	222,529,732	7,927,268
施設整備等支出計(8)	230,457,000	222,529,732	7,927,268
施設整備等資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 155,136,000	△ 147,208,732	△ 7,927,268
借入金収入	63,403,000	63,402,950	50
積立預金取崩収入	224,951,000	217,917,772	7,033,228
その他の収入	22,682,000	16,780,218	5,911,782
財務収入計(10)	311,046,000	298,100,940	12,945,060
借入金元金償還金支出	19,242,000	19,217,207	24,793
積立預金積立支出	422,592,000	420,830,307	1,761,693
その他の支出	32,073,000	31,473,285	599,715
流動資産評価減等による資金減少額等	0	0	0
財務支出計(11)	473,907,000	471,520,799	2,386,201
財務活動資金収支差額(12)=(10)-(11)	△ 162,861,000	△ 173,419,859	10,558,859
予備費(13)	0	0	0
当期資金収支差額(14)=(3)+(6)+(9)+(12)-(13)	△ 101,436,000	△ 23,798,701	△ 77,637,299
前期末支払資金残高(15)	438,098,628	531,094,475	△ 92,995,847
当期末支払資金残高(14)+(15)	336,662,628	507,295,774	△ 170,633,146

事業活動収支計算書

(自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)

勘定科目	本年度決算	前年度決算	増減
就労支援事業収入	85,034,864	76,866,798	8,168,066
就労支援事業活動収入計(1)	85,034,864	76,866,798	8,168,066
就労支援事業支出	83,817,898	78,670,070	5,147,828
就労支援事業活動支出計(2)	83,817,898	78,670,070	5,147,828
就労支援事業活動収支差額(3)=(1)-(2)	1,216,966	△ 1,803,272	3,020,238
自立支援費等収入	1,453,214,083	1,372,124,873	81,089,210
利用料収入	38,265	18,792	19,473
私的契約利用料収入	199,675,569	213,700,035	△ 14,024,466
委託事業等収入	1,057,059,007	1,040,528,710	16,530,297
補助事業等収入	50,548,370	92,771,771	△ 42,223,401
経常経費補助金収入	298,096,000	0	298,096,000
寄附金収入	8,906,000	7,276,146	1,629,854
雑収入	33,714,269	32,733,169	981,100
引当金戻入	55,950,053	38,007,507	17,942,546
国庫補助金等特別積立金取崩額	81,862,154	41,584,942	40,277,212
福祉事業活動収入計(4)	3,239,063,770	2,838,745,945	400,317,825
人件費支出	1,915,887,620	1,823,350,911	92,536,709
事務費支出	420,003,241	409,987,804	10,015,437
事業費支出	376,944,748	358,367,265	18,577,483
減価償却費	125,208,367	116,305,376	8,902,991
引当金繰入	20,759,759	28,932,938	△ 8,173,179
福祉事業活動支出計(5)	2,858,803,735	2,736,944,294	121,859,441
福祉事業活動収支差額(6)=(4)-(5)	380,260,035	101,801,651	278,458,384
受取利息配当金収入	4,024,087	3,653,137	370,930
会計単位間繰入金収入	31,575,630	170,751,165	△ 139,175,535
経理区分間繰入金収入	279,763,747	281,111,859	△ 1,348,112
事業活動外収入計(7)	315,363,444	455,516,161	△ 140,152,717
借入金利息支出	2,289,106	2,525,027	△ 235,921
経理区分間繰入金支出	263,330,597	297,900,506	△ 34,569,909
会計単位間繰入金支出	31,496,734	170,588,052	△ 139,092,318
事業活動外支出計(8)	297,116,437	471,014,585	△ 173,898,148
事業活動外収支差額(9)=(7)-(8)	18,247,007	△ 15,498,424	33,745,431
経常収支差額(10)=(3)+(6)+(9)	399,924,008	84,499,955	315,424,053
施設整備等補助金収入	75,321,000	104,384,000	△ 29,063,000
固定資産売却収入	0	10,000	△ 10,000
国庫補助金等特別積立金取崩額	638,800	424,483	214,317
その他の特別収入	70,543,581	0	70,543,581
特別収入計(11)	146,503,381	104,818,483	41,684,898
基本金組入額	16,000,000	0	16,000,000
固定資産売却原価・処分損	73,950	3,931,066	△ 3,857,106
国庫補助金等特別積立金積立額	63,873,250	64,450,010	△ 576,760
その他の特別支出	70,543,581	0	70,543,581
特別支出計(12)	150,490,781	68,381,066	82,109,715
特別収支差額(13)=(11)-(12)	△ 3,987,400	36,437,417	△ 40,424,817
当期活動収支差額(14)=(10)+(13)	395,936,608	120,937,372	274,999,236
前期繰越活動収支差額(15)	1,475,530,680	1,212,026,613	263,504,067
当期末繰越活動収支差額(16)=(14)+(15)	1,871,467,288	1,332,963,985	538,503,303
基本金取崩額(17)	0	0	0
基本金組入額(18)	0	0	0
その他の積立金取崩額(19)	208,611,000	374,038,850	△ 165,427,850
その他の積立金積立額(20)	383,543,833	177,392,955	206,150,878
次期繰越活動収支差額(21)=(16)+(17)+(18)+(19)-(20)	1,696,534,455	1,529,609,880	166,924,575

貸借対照表

(平成25年3月31日現在)

資産の部			負債の部		
科目	当年度末	前年度末	科目	当年度末	前年度末
流動資産	843,746,261	1,201,582,259	流動負債	335,710,578	669,677,912
現金預金	399,703,260	549,489,899	未払金	306,830,265	621,502,523
未収金	434,997,857	605,377,455	預り金	5,489,392	6,211,287
貯蔵品	142,298	180,620	受取金	3,391,281	2,995,753
立替金	5,288,804	4,841,504	会計単位間借入金	20,000,000	28,668,349
前払金	427,340	586,360	経理区分間借入金	0	10,300,000
会計単位間貸付金	0	28,668,349	固定負債	709,544,692	700,549,243
経理区分間貸付金	0	10,300,000	設備資金借入金	234,429,858	189,847,615
仮払金	2,446,793	1,328,200	長期運営資金借入金	2,775,500	3,172,000
原材料	739,909	809,872	退職給与引当金	377,802,025	409,876,023
固定資産	3,343,424,568	2,917,251,551	全事協退職年金共済引当金	94,537,309	97,663,605
固定資産(基本財産)	919,342,436	714,330,492	負債の部合計	1,045,255,270	1,370,227,155
建物	869,326,538	664,314,594	純資産の部		
土地	35,015,898	35,015,898	基本金	49,400,000	33,400,000
基本財産特定預金	15,000,000	15,000,000	国庫補助金等特別積立金	453,041,046	471,668,750
その他の固定資産	2,424,082,132	2,202,921,059	その他の積立金	942,940,058	768,007,225
建物	25,702,132	28,487,627	貸付原資積立金	421,609,937	255,439,588
構築物	5,407,120	4,088,057	人件費積立金	180,567,948	185,167,948
機械及び装置	17,687,810	19,201,083	施設整備等積立金	340,762,173	267,345,989
車輦運搬具	41,666,848	31,735,022	建設積立金	0	60,053,700
器具及び備品	28,893,239	33,133,194	次期繰越活動収支差額	1,696,534,455	1,475,530,680
建設仮勘定	0	60,053,700	次期繰越活動収支差額	1,696,534,455	1,475,530,680
権利	448,404	483,780	(うち当期活動収支差額)	395,936,608	120,937,372
ソフトウェア	3,595,136	5,980,337	純資産の部合計	3,141,915,559	2,748,606,655
長期貸付金	524,875,003	395,745,640	負債及び純資産の部合計	4,187,170,829	4,118,833,810
退職給与積立預金	377,802,025	409,876,023			
その他の固定資産	360,527,048	408,529,466			
貸付原資積立預金	421,609,937	255,439,588			
人件費積立預金	180,567,948	185,167,948			
全事協退職年金共済預け金	94,537,309	97,663,605			
施設整備等積立預金	340,762,173	267,345,989			
資産の部合計	4,187,170,829	4,118,833,810			

人事異動

新規採用

(平成25年4月1日付)

水内荘 支援員／田中沙織(支援課)
長野圏域障害者総合支援センター 歩案里 支援員／石倉三鈴

信濃学園 支援員／竹内誉(支援課、降旗誠(同)、山崎遥(同)、鯉川久美子(同))

松本あさひ学園 支援員／中嶋勇一(治療支援課)、岩崎誠(同)

長野町障害者就労支援センター 支援員／瀧澤龍一

西駒郷 支援員／宮澤澄恵(あすなろ支援課)、浅井美奈子(同)、福澤高寛(ひまわり支援課)、和田麻奈美(同)、山岸直子(さくら支援課)、藤澤祥太(同)、石坂優季(同)、田中隼(駒ヶ根日中支援課)

上伊那圏域障害者総合支援センター 専門員／唐木昭

サンアップル 指導員／日野真歩(スポーツ課)

事業所間異動等

(平成25年4月1日付)

事務局 企画課長／市瀬元彦(サンアップル総務課長)、主事／河原崎正人(信濃学園支援員)

水内荘 主事／東吉野(事務局主事)

八雲日和 支援員／玉井靖人(西駒郷支援員)

信濃学園 所長／合木康典(県からの派遣職員)

松本あさひ学園 所長／岡村正人(再、次長兼総務課長)、次長兼総務課長／青樹令一(再)

ほっとワークスホーム伊北 所長／北沢和明(ほっとワークスグループホーム・ケアホームセンター専門員)、主任支援員／落合尚子(ほっとワークスグループホーム・ケアホームセンター主任支援員)、支援員／池上美江(西駒郷支援員)、森美彩(ほっとワークスグループホーム・ケアホームセンター支援員)

ほっとワークスグループホーム伊南 所長／原雅章(兼、主任支援員)、増田佳奈江(ほっとワークスグループホーム・ケアホームセンター主任支援員)、支援員／小松聖司(ほっとワークスグループホーム・ケアホームセンター支援員)、齋藤さつき(西駒郷支援員)

ほっと居宅 所長／原雅章(兼)、主任支援員／増田佳奈江(兼)

伊那ゆいまー 所長／有賀美希恵(伊那ゆいま

る専門員) 支援員／片山智恵(西駒郷支援員)
ほっとワークス・みのわ 所長／三澤淳子(ほっとワークス・みのわ専門員)

西駒郷 総務課長兼企画調整係長／宮下敦志(西駒郷企画推進課長)、庶務係長／藤原健(西駒郷主任)、地域移行推進課長／藤原香澄(西駒郷係長)、自活訓練係長／濱田琢也(西駒郷係長)、さくら支援課長／小林賢輝(西駒郷あすなろ支援課長)、あすなろ支援課長／尾野成彦(西駒郷駒ヶ根日中支援課長)、駒ヶ根日中支援課長兼わく支援課長／小澤聖(西駒郷わく宮田課長)、まっぴ支援課長／森岡恵子(西駒郷さくら支援課長)、わく宮田課長／矢花尚利(兼、わく宮田係長) 池田裕恒(西駒郷主任支援員)

サンアップル 総務課長／小林善信(再、企画係長) 佐藤憲司(サンアップル主任、主任指導員) 太田澄人(サンアップルまっぴと指導員)、指導員／吉田博明(西駒郷支援員)

サンスポーツまっぴと 専門員／北沢好宏(サンスポーツ駒ヶ根専門員)

サンスポーツ駒ヶ根 指導員／石村祐輔(サンアップル指導員)

派遣期間終了

(平成25年3月31日付)

信濃学園 所長／清水剛一(障害者支援課へ)、専門員／有賀洋司(松本保健福祉事務所へ)、服部美佐子(松本児童相談所へ)、支援員／田中智大(総合リハビリテーションセンター)

松本あさひ学園 所長／工藤伸一(飯田児童相談所へ)、支援員／岡村直亮(大町保健福祉事務所へ)、唐沢真由美(中央児童相談所へ)

退職

(平成25年3月31日付)

松本ひよこ 支援員／中平亜矢子

ほっとワークスグループホーム・ケアホームセンター 所長／降旗止章

西駒郷 総務課長／北林昌彦、まっぴ支援課長／田中一則、支援員／北沢公司

(平成25年6月4日付)

西駒郷 支援員／根村隆司

(平成25年7月10日付)

西駒郷 支援員／森田淳

(兼)他職との兼務職員

(再)退職後、再雇用職員等

プレゼント



「小春日和(こはるびより)」

支援員

仲田 瞳 からのメッセージ



「かまどcafé小春日和」では店内かまどで炊き上げたおにぎりや、町内の障害者支援施設「八雲日和」で製造した素材にこだわったおいしいうどん等のランチセット、そして地元のフルーツを使用したスイーツセットを

ワンコインで食べることができます。

ゆったりとした店内で子どもからお年寄りまでゆっくりとお過ごしいただけます！

地元のテレビ局で放映された噂のワンコインランチをこの機会に是非ご賞味ください。



事業団だより「やまなみ」の感想や今後掲載してほしい内容等について、①郵便番号、②住所、③氏名、④電話番号を記載のうえメールまたは郵便はがきにて法人本部(事務局)までお寄せ下さい。

10月末までにお寄せいただいた方の中から抽選で、「つれづれ福祉」でも紹介している「小春日和」の「500円割引チケット1,500円分」を5名の方にプレゼントいたします。

なお、当選発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。(プレゼントの発送は11月頃を予定しています)

職員採用のお知らせ

長野県社会福祉事業団 平成25年度職員採用試験

■総合職 一次試験日 平成25年9月22日(日)
■一般職(支援員・看護師) 一次試験日 平成25年9月29日(日)

※詳細は当事業団ホームページからご確認ください。

サンスポーツ駒ヶ根 設立10周年記念式典開催!!!

平成25年8月4日(日)に障害者スポーツ支援センター駒ヶ根(サンスポーツ駒ヶ根)設立10周年記念式典およびアクアイベントを開催致しました。式典では、サンスポーツ駒ヶ根を支えていただいていた関係者の方々やブル利用者、教室参加者



など多くの方にご出席いただきました。開設からの10年の歴史を振りかえりながら、この記念すべき日を皆さまと祝うことができましたこと、大変嬉しく、感謝申し上げます。(石村)



トピックス

6月26日、富士山が世界遺産に登録されました。富士山にまだ登ったことのない静岡県出身の私にとりまして、うれしい限りです。

さて、富士山に限らず、昨今の登山ブームの一方で、登山者のゴミ捨てマナーについてメディアで取り上げられることがあります。山を愛し、頂上からの美しい景色を眺めて感動していながら、その登山者によるゴミ問題が話題になるこの矛盾。

信州の美しい自然のなかで暮らしていくこと、信州ならではの文化や風土を享受しつつ次代に受け継いでいくことは「信州自然的暮らし」を掲げる事業団の目標でもあります。

まずは、自分自身のゴミの出し方について考えてみることで信州の自然を守ること、ひいては「信州自然的暮らし」を進めていく第一歩なのかもしれません。

(河原崎)

編集後記

掲載記事の内容等についてのお問い合わせ及びプレゼントの応募はこちらまでお願いします。



社会福祉法人
長野県社会福祉事業団

〒380-0928 長野市若里七丁目1番7号 長野県社会福祉総合センター5F
tel: 026-228-0337 fax: 026-228-0310
URL: http://park19.wakwak.com/~nagano-shafuku-j/